

# 令和8年第4回滋賀県社会教育委員会議 概要

〔日 時〕 令和8年2月3日（火）

10:30～12:00

〔会 場〕 滋賀県庁北新館5階5B会議室

## 【出席委員(委員名簿順)】

箕浦 博樹 委員	川端 一 委員	橘 円 委員	藤原 麻美 委員
平松 成美 委員	岨中 庸子 委員	内山 淳子 委員	上田 洋平 委員
角出 好隆 委員	中村 一彦 委員	高橋 宏和 委員	梅村 亮介 委員
福井 心空夢 委員	(13名)		

## 1 開 会

○議長挨拶

○資料、日程確認

## 2 議 事

(1) 令和8年度社会教育関係団体・機関等への補助金交付について

(2) 審議テーマに係る協議

提言(案)「地域への誇りと愛着を育む社会教育のあり方

～学びを通じた地域社会のつながりづくり～」について

○提言(案)の内容について

前半：提言(案)の構成および「3 審議の論点」まで

後半：提言(案)4・5・【参考】および概要版(案)

○提言完成へ向けての作業・スケジュールについて

2月中旬…提言確定

3月16日(月)16:30～17:00… 県教育長へ提言手渡し式

(議長および参加可能委員)

3月27日(金)10:00～ … 定例教育委員会議報告(議長)

○議長総括

各委員から一言

## 3 その他、諸連絡

○連絡事項

## 4 閉 会

○課長挨拶

## 【別紙資料】

資料1：令和8年度社会教育関係団体・機関等への補助金交付について

資料2：提言(案)「地域への誇りと愛着を育む社会教育のあり方

～学びを通じた地域社会のつながりづくり～」について

資料3：提言(案)についての意見等と対応

資料4：提言【概要版】(案)

## 1 開会

生涯学習課 川口

本日の出席状況について確認し、御報告いたします。

本日の会議は委員 13 名、内オンライン 3 名に出席いただいております。会議の定足数は滋賀県社会教育会議規則第 3 条の 2 にあります、3 分の 2 以上となっており、本会議は成立しておりますこと、報告申し上げます。

会議の開会に先立ち、本会議の公開についても確認させていただきます。

「附属機関等の会議の公開等に関する指針」に基づき、本会議を公開することを御承認いただきたいと思います。よろしいでしょうか。(委員承認)

なお、公開を前提に報道機関への周知、傍聴の募集を行いましたこと、御了承いただきますようお願いいたします。会議の概要に関しても県民情報室を通して公開されることを了承願います。

本日の会議について、傍聴定員 5 名として会議の開催を告知しましたところ、傍聴希望者は 0 名でしたこと、御報告いたします。

### 【開会挨拶】

川端議長

委員の皆様には本会議に出席いただきましてお礼申し上げます。オンラインにて参加いただいている方もありがとうございます。

本日が約 2 年の任期における最後の会議となります。まずは今日までのことについて感謝申し上げます。限られた会議の場と研修の機会の中で、滋賀の社会教育の将来像について皆さんと一緒に語り合うことができたことに、感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございます。そして何より皆様とよりよい人間関係が構築できたと思っています。任期終了後も、それぞれのお立場で活躍いただきたいと思っています。

会議の最後には皆さんから一言ずつお言葉を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。議事の中身についてはもちろん、これまでの会議を振り返っての御意見や御感想もいただけたらありがたいと思います。よろしくお願いいたします。一旦事務局にマイクを返します。

生涯学習課 林

本日の日程と、配付物等について説明させていただきます。

配付資料にあります、次第をご覧ください。令和 6 年度から継続した会議でございますので、令和 8 年第 4 回と表記しております。本日の会議時間は 90 分となっていることから、途中の休憩時間を設けないことについて、あらかじめご了承願います。

議事としましては報告事項 1 件、協議事項 1 件です。

特に、協議事項については、審議テーマ「地域への誇りと愛着を育む社会教育のあり方～学びを通じた地域社会のつながりづくり～」について、2 年間に

わたる調査研究と協議からまとめていただきました「提言書」(案)について御協議いただきます。会議終了は12:00を予定しています。

配付資料につきましては、皆様に事前に送付させていただいておりますが、本日の議場にも同じものを配付しております。次第(冊子)、資料1~4となります。また、社教情報93号、滋賀県青少年育成県民会議の資料2部、そして、本日、上田副議長からの資料もいただきました。また有志の会の収支決算書を議長からお預かりしましたので、関係の方には配付させていただきました。過不足等ございましたらお声かけください。以上です。

生涯学習課 川口

それではこの後の進行を、川端議長へお渡ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 2 議事

### (1) 報告事項

川端議長

それではこれより議事に入ります。まず議事(1)令和8年度社会教育関係団体・機関等への補助金交付について事務局より説明をお願いいたします。

生涯学習課 林

資料1をご覧ください。社会教育法第13条には、「社会教育関係団体へ補助金を交付しようとする場合は、社会教育委員の意見を聴いて行わなければならない。」という規定がございます。お時間をいただきまして、令和8年度の補助金について、説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

No.1~13に記載のとおり、令和8年度は13の団体に対する補助金交付を予定し、予算要求を行っているところです。補助金額についてはまだ確定しておりませんので、資料には本年度の補助金額を記載させていただいております。なお、令和8年度の予算要求に際しましては、今年度交付させていただいた補助金の活用状況や事業効果、次年度の活動予定等の確認を行い、より有効な補助となるよう努めたところでございます。生涯学習課所管のものと、子ども若者部所管のものがございますので、まず、生涯学習課所管の補助金について、御説明させていただきます。

No.1~No.7およびNo.13-③が、生涯学習課所管の補助金でございます。それぞれの団体の補助対象となる事業内容につきましては、補助内容欄に記載のとおりですが、主に各団体が実施する会員の資質向上の取組や活動の活性化を図るための研修会の開催、広報誌の発行といった内容となっております。

団体との事業連携も含めて、活動の意義、効果を明確にし、目的に沿った事業に補助金を充てるように、事業や大会への参加、事務局への訪問を通して、確認や助言を行っております。

例としまして、社会教育委員連絡協議会においては、県内各市町の社会教育関係者が、より効果的、効率的に広域的な研修、交流ができるよう、6月には

米原市での研修会、11月には県庁での研究大会の開催や、研究調査活動の一環として社会教育委員のハンドブックの発行や、特に、昨年度は「社会教育委員体験記」も作成され県内の社会教育の推進に取り組まれています。また、県人権教育推進協議会におきましても、人権意識の高揚と人権教育の推進を図るために、市町人権教育推進協議会等と連絡調整を図りながら人権教育に係る研修会や交流会を実施されているところです。

続きまして、子ども若者部所管の補助金について、子ども若者部 子ども若者政策・私学振興課 金畑主任主事から説明をします。

子ども若者政策・私学振興課 金畑

金畑でございます。当部所管の補助金について、御説明いたします。No.8～No.13-②までが、子ども若者部の補助金でございます。

県では、令和7年3月に策定しました「淡海子ども・若者プラン」におきまして、「多様な遊びや体験の機会の確保、社会参画活動の活性化」を重点項目と位置付け、青少年関係団体のネットワークの連携強化を目指し、県内青少年の主体的な活動がさらに充実するよう推進しています。

令和8年度も、これまでと同様、県の青少年施策を補完し、県域で活動を展開している6団体に対しての補助金交付を予定しています。また、それぞれの団体の補助対象となる事業内容につきましては補助内容欄に記載のとおりですが、主に青少年の健全育成に資する取組や広報誌、啓発資料の作成、また各団体の会員や団員のスキルアップを図るための研修会、青少年リーダーや指導者の育成に関する事業の実施、各種大会等への派遣補助といった内容になっております。以上でございます。

川端議長

委員の皆様から御質問や御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。補助金の額は令和7年度のを記載し、令和8年度については県議会がこれからですので、確定していないということで、今回の資料には載っていないということで御了承くださいということですね。

概ね、記載程度の予算が確保されるということで捉えさせていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。

(各委員の領きを議長が確認)

皆様、確認いただいたということで終わりたいと思います。ありがとうございました。

(子ども若者政策・私学振興課 金畑は退席)

(2) 審議テーマに係る協議(前半)

川端議長

それでは議事(2)審議テーマに係る協議ということで、今回約2年間かけて、

委員の皆様方から御意見いただいたり、研修をしながら学んできたことをまとめていただいた提言についての最終の確認の場にしたいと思います。

前半部分、後半部分と2つに分けて、行いたいと思います。それでは事務局より前半部分についての説明をお願いいたします。

生涯学習課 林

前半部分は提言書(案)1ページから17ページになります。これが【資料2】の提言書(案)です。A3サイズで二つ折りになっております【資料3】も見ながらお願いいたします。

最初に、提言書の構成についてです。【資料2】提言書(案)2ページの目次を御覧ください。「1 はじめに」では、滋賀県の社会教育、生涯学習を取り巻く状況について、各種調査結果を基にしながら説明し、さらに、滋賀県、滋賀県教育委員会そして、国の動向を記述し、「2 審議テーマ」につなげています。

「2 審議テーマ」では、社会教育委員の皆様が、主体的な調査研究や審議に基づき、今後の滋賀県の社会教育推進の方向性、特に、地域社会のつながりを構築し、維持・発展させていくための具体的な施策と、社会教育が果たすべき役割を明らかにするという目的を記載しています。

「3 審議の論点」では、2年間の議論について、第4期滋賀県教育振興基本計画の柱Ⅲ(2)地域社会で学びにつなげる、で示された項目と対応させ、①地域と共に取り組む学び②企業・NPO等と共に取り組む学び③家庭と共に取り組む学び、の3点から整理しています。さらに、後半は、それを踏まえて導き出した5つのキーワード、そして「地域への誇りと愛着を育む社会教育チェックシート」について記載しています。

皆様から頂いた御意見については、【資料3】記載の通り、対応させていただいております。本日の会議では、提言書の完成に向けた審議が中心となります。以上です。

川端議長

ありがとうございました。2ページの目次をみると、初めの1から3、審議の論点についてまで、ということで先程概要を説明いただきました。提言に入るまでに1から3に皆様からの提言をまとめていただいたということで、まず皆様のこれまでの意見や協議の中身について、またいろいろな背景を踏まえて、「このような内容でどうか？」という土台の部分を確認していくということになるかと思いますが、いかがでしょうか。

少し切った方がよいですか？例えば1のはじめのところで何か御意見・御質問があれば、という風にさせていただきませんか。

生涯学習課 林

議長、一点よろしいでしょうか。提言(案)で背景色がついている部分が年末にお送りさせていただいたところから、皆様の意見を踏まえて修正等をさせて

いただいている箇所になりますので、お知りおきください。

川端議長

その修正をかけていただいたところは、皆様からいただいた御意見を踏まえたものであるということですね。わかりました。

少し分けましょう。ページでいうと、3～9ページ中段あたりくらいまで。「1 はじめに」にあたる部分について、いかがでしょうか。  
橘委員、どうぞ。

橘委員

些末なことかもしれないですが、3ページの表ですが、空欄には最新の情報が  
入る予定ですか。

川端議長

表の空欄部分、今回の調査と令和6年の間に空白の箱がある。ここは何か意味があるのでしょうか。ということですが、事務局いかがですか。

生涯学習課 林

作業の中で空欄が入ってしまった可能性があります。確認はしますが、削除という形で対応したいと思います。

川端議長

この空欄はなくてよいということですね。表については確認してもらおうということをお願いします。

保護者の収入とか貧困世帯の連鎖のあたりで4ページにグラフと注釈等入れ  
てもらった資料もありますが、そのあたり梅村委員いかがですか。

梅村委員

1回目に資料を見たときになかった部分だなと思って拝見していました。私が課題意識を持っていたところでもあり、この会議でも話をしていただいていたので、提言に盛り込んでいただきよかったなと思っています。

川端議長

オンラインの平松委員、角出委員、高橋委員、9ページの審議テーマまでのところまで御意見・御感想はありますか。

平松委員

報告のベースになるところの丁寧な資料だと思いますので、特に気になる部分はなかったと思います。

高橋委員

特にありません。ありがとうございます。

角出委員

私も同様です。ありがとうございます。

川端議長

9 ページからの「審議テーマ（2）について」というところから、少しページは多いですけども、17 ページの上7行までのところで、審議テーマとその論点というところで、御意見等をいただきたいと思います。

12 ページ「家庭と共に取り組む学び」の部分については、赤字で修正をかけていただいた部分が多いですが、何か事務局で工夫してもらった点があれば、いかがでしょうか。

生涯学習課 林

この部分については、前回は経済格差、体験格差について、経済格差というところから負のサイクルが生じるということを記述していました。しかし「家庭と共に取り組む学び」ということですので、それも踏まえて社会総がかりで、子どもたちに学びの機会を保障するという観点での記載の方がより相応しいのではないかという御意見を踏まえまして、経済格差、体験格差に特化するのではなくて、社会総がかりで家庭と共に取り組む学びという記載にさせていただいております。

上から4行目のところに、「すべての子どもが、保護者の経済状況等に関わらず」ということで経済状況のところは、最初の背景のところを含めての反映なのですが、それ以外にもいろいろな体験機会の差につながる部分がありますので「等」としています。皆様で「経済だけではない」というあたりで、どんな部分があるのかということについて、合意形成をはかっていただけると、「家庭と共に取り組む学び」でアプローチする視点が深まっていくのではないかと思います。どうぞよろしくお願いします。

川端議長

経済的な背景というのも、大きなウェイト要因としてはあるけれども、決して家庭の経済状況だけでもない。それ以外でも家庭を支えていく方法はある。各家庭が身につけなければならない、家庭で大事にしなければいけないもの、お金で買えるものではないということから「等」がついているということですが、他の文言がある方がよい等、このあたり御意見いかがでしょうか。

唄中委員

「経済状況等に関わらず」という言葉を入れてもらって私はよかったと思っています。体験につながりにくい御家庭というか、それは経済状況だけではない、

ということを感じる経験を、これまでスクールソーシャルワーカーとして感じてきました。

4月からは社会的養護、児童養護施設で仕事をしていますが、様々な理由で社会とつながっておられない方や子どもを間近に見ております。そういった家庭や子どもたちを社会総がかり・地域総がかりで、ということはこの社会教育委員会議でいっていただくことへの感謝というか、この文言が素晴らしいと思って聞かせていただきました。

社会的養護、児童養護施設にいる私ですが、子どもたちがどのように地域とつながるのかなと思って見ていると、コミュニティ・スクールや学区の活動で包んでもらっていて、そこに参加できる機会が十数年前よりはすごく恵まれています。そして、その地域への愛着が生まれていると感じます。

この言葉を入れる必要がないかもしれないですが、その思いが伝わるといいなと思いました。以上です。

#### 梅村委員

すみません。脱字なのですが、2行目が“行うことができよう地域”とありますが、「でき“る”ように」となると思いました。

#### 中村委員

読ませていただいて、本当に県教育委員会様、そして社会教育委員の皆様のご取組はZ世代につながる素晴らしい取組と考えております。昨年の新社会人に対してリクルートはキーワードのアンケート調査をとっています。我々の古い時代ですと、やっぱりキーワードとして出てくるのが「出世」「金銭」が出てくるのですが、このZ世代が何を期待しているか。それは、「①貢献」・「②成長」・「③仲間」の3つを大事にしている。ギャルマインドに通じるところもあるのです。若い世代が何を求めているのか時代によって変わってきていると感じます。

「貢献、成長、仲間」のようなキーワードがまず飛び出してくるのは、社会教育委員の皆様が社会教育活動を長年取り組みいただいている思いを、今のZ世代が感じ取っていると思います。

もう一つの課題が、15歳未満の「α世代」への接し方についての悩みです。企業も、「α世代」との対話の仕方について悩んでいる現実があって、いろいろなヒアリングをしながら試行錯誤しているところです。

今、社会教育委員の皆様が各方面で取り組まれていることは、「α世代」が大人になる中で、その成長を支えるサポートとして、大きな役割になると思います。ありがとうございます。

#### 川端議長

「Z世代」の次が、「α世代」なのですね。福井委員は「Z世代」でしょうか。福井委員、若者の視点で、御意見をいただけたらと思います。

福井委員

私も「Z世代」です。先程「仲間が大事」とおっしゃっていましたが、私も活動する中で、どんな仲間であれば一緒にやっていけるかはとても大事だと感じています。

“私たち世代は”という主語が大きいのですが、「Z世代」にとってもこの文言は大切なのではないかと思います。ありがとうございます。

川端議長

高度経済成長期の時代に育った者は、お金・時間を優先したいと思うが、今は本当に生きていく中で大事にしたいものの変化しています。若い世代のみなさんが、そこに注目してくださっているということは、とてもいいことだなと思います。きっとそれが次の活動へつながっていくのだろうと思いながら、話を聞かせていただきました。ありがとうございます。

角出委員、平松委員、高橋委員、いかがですか。

平松委員

経済状況に関わらずという文言を入れていただいて良かったと思います。具体的には高島市は合併して広域になり、子どもの活動場所が市内中心部である安曇川や新旭になっています。マキノ周辺の子供たちが活動に参加したいと思っても、距離的に難しく、なかなか親の送迎もできないことから、参加を諦めざるを得ないという現状があります。交通機関も十分ではなく、バスでの移動もマキノから安曇川行きのバスがない不便さなどを考えると、この文言を入れていただくことで、子どもの住む身近なところに体験できる場所があるのは大切なことだと伝わると思います。

川端議長

ありがとうございます。高橋委員、角出委員いかがでしょうか。

高橋委員

特にありません。大丈夫です。ありがとうございます。

川端議長

家庭教育の話にもつながると思いますが、角出委員いかがでしょうか。そのあたり、学校現場から感じられることなどありましたら、お願いいたします。

角出委員

確かに経済格差は、学校現場でもあるかなと思います。それから「環境格差」というのでしょうか。今、平松委員がおっしゃったような参加したくても交通の不便さがあるところを考えると、どんな状況でも参加できる送迎のシステムが必要になってくると思います。特に過疎化で人が減ってきている地域では、人を

集めること自体が難しくなっている状況があるので、そのようなシステムが今後必要と感じています。自身の学区を見ているともそう感じます。

川端議長

ありがとうございます。17 ページのところまではこの2年間でAIを活用しての社会教育の役割について絞り込む作業にもチャレンジしてみました。そこから16 ページにありますチェックシートも作成したことも大きな目玉になることではないかなと思います。

この取組は決して誰かの取組を批判したり、評価したりするものではなく、自分たちの取組の活動を振り返るものとして、チェックシートを活用していきたいという思いをもっています。さらに、この取組が、各市町や様々な団体の取組につながって、広く社会教育の取組としてつながるとよいと考えています。そのあたりも含めて、17 ページ前半の文言までで上田副議長、いかがでしょうか。

上田副議長

③家庭と共に…のところで網が掛かっている一番下の部分について、「社会教育ができることはあります」とありますが、「できることはあります」は少し控え目な表現ですね。できないと思っているかもしれないけれど、できることはあります。これをそういう意図でやっておられるのか。例えば、「社会教育にできることがあります」だともう少し積極的かなと思います。これは書いてくださった方の奥ゆかしいところが出ている部分かもしれません。私たちができること、私たちにできることがあるという形でもいいのではないかなと思いました。

それから余談ですが、高島市社会教育委員会議では、早速これ（チェックシート）を参考にしまして、最初は“物差し”をつくらうとしていました。しかし“物差し”のように測るものではなく、まさにこれは“コンパス”のような形だと思いました。“コンパス”として、どっちへいけばいいのか、みんなで指針について議論するためのものという認識に至りました。

箕浦委員

12 ページの網掛けのところ、いろいろと御意見等があり、経済状況等の部分にもなると思いますが、この家庭状況等を見たとき、この中に「セーフティネット」という文言もあるといいという思いがしています。それをどう入れるのかというのは難しいのですが、子どもの家庭環境を見ていると、親世代も結構困っているところがあります。相談できる場所がないという声が多いです。その方たちへの救いの手を差し伸べられるようなことが必要だと感じています。この提言はとてもよくまとめられていて、前向きな内容が結構入っていますが、セーフティネットを張れるようなところにも文言があるといいなと思いました。以上です。

川端議長

ありがとうございました。県生涯学習課では、家庭教育支援の研修等もいろいろされています。その実績も踏まえながら、また、それを活用し、提言書を練り上げていきたいと思えます。

それでは、17 ページの前段のところまでは、一応これで区切りをつけて、後半に入りたいと思えます。17 ページの残りから 20 ページまでになりますが、(4) の提言以降の御説明をお願いしたいと思えます。

生涯学習課 林

「4 提言」についてですが、第3回会議後に、議長、副議長と協議をさせていただき、【提言2】について、表現を「つながりや学びを『縁出』する人材の育成」に修正させていただいています。

第3回会議では、「つながりや学びを支える「脇役的主役」の育成」としてしました。これは“脇役的主役”という語句だけを見た時、学びやつながりを作る人材が主役になるという誤ったイメージが伝わる可能性があること、また、何より大切にしたいのは、学びやつながりをつくる人材が必要であることから、“縁出”には、カギカッコを付けて強調することとしました。

また、“まぜて ちらして つなぐ”についても、当事者が主体的に活動することがより伝わる表現として、“まじわる ひろがる つながる”としました。

枠内については、提言を受けて、県教育行政が施策として実施するための具現化の視点として示しています。

「5 おわりに」は、県の社会教育推進の一つの指針となることへの期待として締めくくりました。

参考資料としては、名簿、活動記録、事例報告と現地視察について付けました。

【資料4】概要版(案)についてですが、提言(案)のエッセンスを抽出し、A3サイズにまとめさせていただきました。以上です。

川端議長

ありがとうございました。特に17ページの【提言1】、【提言2】の表現について、事務局から説明がありましたように、誤解を招かないように、これから社会教育関係者に同じように理解していただけるよう、つまり、議論していた私たちは分かるけれど、今後、提言となって、県内の社会教育委員や社会教育関係者が読まれた時に、同じように理解してもらうために文言を変えたということ、当事者意識を大事にした、“まじわる ひろがる つながる”表現に変えたということで説明いただきました。

これが、私たちが関わってきた2年議論してきたことのまとめの部分になるので御意見いただければと思えます。いかがでしょうか。

【提言1】の「ここちよいつながり」を生む社会教育がよいのか「ここちよいつながり」を生み出すというのもどうかと読みながら思いました。オンラインの方々、後半部分についてどうでしょうか？

平松委員

今、議長が言われた「生む」より「生み出す」の方がしっくりくると思います。伝わりやすいのではないのでしょうか。「生み出す」の方が、市民が意識しなくても無意識に社会教育につながる気がしました。

川端議長

ありがとうございました。

橘委員

【提言1】のところで「こちよいつながり」を生む社会教育で文章が書かれていて、最後に「生み出していくことが求められます」とまとめられているので、この表現の方が中身と表現が合っていてよいのではと思います。17ページの(1)2段落目の最後のところです。

川端議長

表現について練っていきたいと思います。検討課題にします。

内山委員

本当によくまとめていただいた提言であります。読みやすいのは、「生み出す」の方ではないでしょうか。私たちの思いが伝わりやすいと思います。社会教育は、大きなことを広範にカバーしますが、どういった方法論でそれを実現していくかが難しいところです。

一番をその方法として、二番の「縁出する」、人材を育成していくことが、私たちや行政の責務であると考えます。また、【提言1】、【提言2】のつながりがよいと考えます。18、19ページにおいても、ここに「施策具現化視点」が加わることによって、提言を実現していくための具体策が県下の市町委員にも分かりやすく書かれているのでよいと思います。

岨中委員

最初の【提言1】の「こちよいつながりを生み出す社会教育」の本文の2行目です。「弱さを認め合い」と書かれていますが、「違いを認め合い」とか、弱い強いではない気がするので、この表現はどうかと思いました。

川端議長

17ページの【提言1】の文言、「弱さを認め合い」を「違いを認め合い」にしてはどうかという御意見をいただきました。角出委員、このあたりいかがでしょうか。

角出委員

どうでしょうね。「違いを認め合い」はよく言われる言葉ですけど、弱さと

という言葉に含まれている意味は何か、色々考えさせられる言葉ではあります。

先程の「生む」と「生み出す」の違いについてもそれぞれの意味があるのかなと思います。そもそも、活動を始める時にはそこまで考えているのでしょうか。それよりは、入口としてのハードルは低くてよいが、出口がその結果としてついてくるようなものを目指したいというのがありますが、小さなことからコツコツとをイメージすると、「生む社会教育」は始めていくことが言葉に含まれるのではないのでしょうか。どちらにもそれぞれの意味があるのではないのかと感じています。

川端議長

貴重な御意見ありがとうございます。

藤原委員

つながりを「生む」「生み出す」の部分ですが、活動ができて、その一步先、「育む」までを見越して、その場で終わらない意味が入ればよいと思いました。

次のページの②のところにも、「多世代が地域に目を向け主体者に関わる」の部分に網掛けが追加されているので、すごくよかったですと思いました。

上田副議長

角出委員がおっしゃった、結果としてそうなっていることは僕も大事にしています。その意味では、「生まれる」みたいなことが何となく、しっくりきます。

「生まれてきた」あるいは、「育み」にはそのような意味があるのではないかと思います。ここに関わる人自身も、つながりを自分で育むということもあるのかなと思ひまして、「生まれる」も候補に入るのではないかと感じます。場づくりの視点からからすると、自ずと生まれてくるみたいなのところがあるのかなと思います。

弱さの意味について、私の解釈は、「私はできます」というのを名乗り出るには、自分への自信があればよいと思います。弱さを打ち明けるには、社会や他者への信頼がないとできないわけですね。ここは安心して自分の弱さを開示できる、「助けて」と言えるということを意図したいのかなと思います。弱さを「認め合う」というのがよいのか、弱さを受け言葉が「認め合う」でよいのかどうか、という議論になるのではないかと思います。「さらけ出す」では少し強い気がします。

「縁出」についても、僕が関わった言葉でもあるので、十分協議をしていきたいと思います。

橘委員

浅い考えかもしれないが、「違いを認め合う」という表現を聞きすぎて個人的にお腹がいっぱいな気がします。「違いを認めよう」という表現も、色々使えば使うほど、私は私だしそれでいいのではないかという印象があり、本来とは異なる

る使われ方が出ていて嫌だなと思うことがあります。

本来、その違いを認め合うという言葉と、それによって求めていることは違わずですが、現実とずれてきているなという気がします。「弱さを認め合う」という言葉が、どういうところまでを含むというのは、泥臭い表現ですが、こちらの方がよりよいのかな。強い、弱いではないけれど、自己開示できることはすごく大事です。私は、今は、「弱さを認め合う」の方がよいと思います。

梅村委員

今の橘委員の意見を聞いて、「違いを認め合う」でもしっくりきますが、昨今の SNS を見ていると相手の弱いところや間違いを責める潮流が嫌で、これは、「ここちよいつながり」ではないと思います。そのニュアンスで言うと「弱さ」を入れた方がしっくりくると思いました。

さらに、下の注釈 19、20 の説明が大事とっていて、一段落目の「ここちよいつながり」の説明について、違う価値観の人と出会って、補い合って、認め合いましょうと本文だけだとスッと流してしまいましたが、これは対比で、逆に今の世の中は、異なる存在にはコミュニティに無関心であったり、攻撃したりすることがありますが、そうではなくて「ここちよいつながり」だよねという、その対比を本文にもってくると意図したことが伝わってよいのではと思いました。

2 段落目も同じで、“まじわる ひろがる つながる”が唐突に出てきていて、意図するところは、今までだと“集めて、束ねて、縛る”みたいなコミュニティの在り方であったけど、これからは、“まじわって、つながって、広がっていく”という表現の方がよいのではと思います。注釈には入っていますが、これを本文にした方が、意図が伝わると思いました。

川端議長

ありがとうございます。注釈は読む人は読むが、読まない人は読まないので、大事なところが伝わらない可能性がありますね。

梅村委員

文章量がどのくらいにもよりますが、注釈の内容を加えた方がよいかと思いました。

上田副議長

「違いを認め合う」という話がでましたが、そういう意味で我々は違いがあることは、前提、当然として考える。そこを前提として一緒に何ができるかを考えることが大事だと思います。

川端議長

一つの言葉であります。みなさんととてもよい議論をしていただきました。委員のみなさんの意見を聴いていると、ここに落ち着くのかなという地点が見

えてきたような気がします。

「違い」という言葉について、みなさんに意見をいただきましたが、それについて深められたことがとてもありがたいです。結局、「弱さ」を大事にしていく方向でここはよいでしょうか。

角出委員

「弱さ」について、一つ気をつけたいことがあります。「弱さ」は誰から見ての「弱さ」になるのかが気になります。自分自身で弱いと言える人はよいですが、他者が弱い人と見てしまうのは、これは違う気がします。そこが気になるところです。「弱さを認め合い」これは、誰から見た時の弱さなのかで文章を考える必要があると思います。

中村委員

角出委員の言葉を聞いて思いましたが、この文章の主語は誰かということ、少し大人目線になっていて、子どもたち目線での弱さを認め合う。これは、何かといいますと、今は、スクールカーストが学校にはあると聞きます。昔は、スポーツができる子がすごいということで序列ができました。今は、学校のクラスの中で目に見えない、底辺は底辺のままという差別があちこちにあると聞く中で、やはり、子ども目線での「弱さを認め合う」ということ、できること、できないことを、お互い認め合う視点を大事にしてほしいと思います。

川端議長

御指摘いただいた通り、「弱さ」を使うとしたら、誰から見ての弱さなのかも大事にしながらまとめていきたいとの御意見もいただき、大変深まりのある議論ができました。

オンラインのみなさんよろしいでしょうか。今のところから少し離れていただいてもよいので、20 ページまでのあたりで御意見がありましたらお願いします。

梅村委員

簡単なところからでいいですか。18 ページの②新たな気づきや学びの創出に、また参加したいにハイライトがついているが、ハイライトのどこが変わったか A3 の紙を見ると、また参加したいで修正があって「 」が削除されていますが、これは発言だと思うので「 」があった方がよいと思います。指摘があって「 」が削除されている経緯を見ると、「 」を削除するというよりは、句読点の丸がいらぬということについての指摘と思うので、「 」は残しておいた方がよいかなと思います。

川端議長

また参加したいに「 」をつけようという指摘ですね。ありがとうございます。

他に御意見ありますか。

高橋委員

19 ページにエンパワメントという言葉が使われていますが、これは、( ) に日本語訳的に書いてありますが、自分のイメージとちょっと違うのです。

私のイメージは、他者が引き出したり、アプローチしたりするイメージであります。主語に、エンパワメントがきているこの文に少し違和感があります。エンパワメントの説明もそうですが、後に続く文章の主語として、ここにエンパワメントの単語が来ることが、私の思うエンパワメントと違うイメージがあります。

上田副議長

同じところが気になりました。本来は引き出すという意味なので、ここは修正を加えた方がよいのではと思います。

内山委員

同じところですけども、エンパワメントの解釈ですが、本来、力を持っている人が、その力の失われた状態にあった者が力を取り戻すことを意味します。エンパワメントは、その人本人自体がエンパワメントしていく状況かと思しますので、ここで使われるのであれば、主体的に行動することまでは入らないであろうと私の考えでは思います。そのため( )の中は、「学びにより本来の力を取り戻すこと」みたいなことではないでしょうか。そこには、知識だけではなく環境も必要です。学びに色々なものを含めるとすれば、「学びにより本来の力を各自が取り戻す」。これで通じるかは分かりませんが、行動することまでを含めるのは、本来のエンパワメントの意味には入らないと思います。

川端議長

エンパワメントの後に( )をしてすぐにこの言葉を入れるので、エンパワメントの説明に捉えられてしまうと、それに適した言葉が必要で、もう少し文言の修正をしてもよいのかなと思います。このあたりを課題としておきたいです。ありがとうございます。

そろそろ全体協議の時間を終わりとして、委員のみなさまの2年間の振り返りをいただきたいのですがよろしいでしょうか。まだ、時間はありますので、後程、何かあればお願いいたします。では、ここで文言の協議を終わらせていただきます。たくさん御意見をいただいて、みなさんの御意見によって私も揺れ動きながら、色々な角度で考えることができました。ありがとうございました。

今後のスケジュールについて事務局の方から願います。

生涯学習課 林

熱心な協議、ありがとうございました。今後の提言完成に向けての作業等のスケジュールについて御説明させていただきます。本日の協議を踏まえて、再度、

事務局で提言（案）を修正し、改めて委員の皆様を確認をしていただき、2月中には提言を確定させていただきます。確定後、皆様にはデータで送付させていただきます。

その後、3月16日に教育長への「手渡し式」を行います。「手渡し式」への出欠確認を取らせていただきます。2月13日までに手渡し式等旅費等確認票の御提出をお願いいたします。なお、手渡し式に参加される委員には、改めて、依頼文書を送付させていただきます。

また、手渡し式後には、場所を変えて、慰労会を開催させていただければと考えています。月曜日ではございますが、御都合がございましたら、ぜひ御参加ください。最後に、3月27日に教育委員会での報告を、川端議長からさせていただきます。

川端議長におかれましては、当日、よろしくお願いいたします。以上です。

#### 川端議長

ありがとうございました。次第の中には、提言の確定が2月中旬とありますが、2月中に確定とさせていただきます、作業を進めていきます。お気づきのことがあれば、早めに事務局にお伝えください。それでは、総括の時間ですが、最初にみなさんから一言ずつお願いしてもいいですか。

#### 岨中委員

先程の議論の中で、私の出した提案にみなさんで、色々な議論ができたことがよかったと思いました。議長も、私が出した提案が心配にならないように、最後に言っていたのでほっと安心しました。この社会教育委員会議は素敵な会議で、意見を安心して言える場でありました。転職して、今は、違う職場にいますが、社会教育が包み込んでいてもらっているのが染みてきたと感じています。ありがとうございました。

#### 藤原委員

2年間みなさんお世話になりました。なかなか仕事の都合で色々な研修等に参加できませんでした。私は、ずっと青年団で社会教育分野に携わっていましたが、この会議に来ることによって、滋賀県中に様々な分野で社会教育とつながっている方がおられ、それぞれの立場から考える視点があることが勉強になりました。

どうしても青年を対象としているので、狭い世界になりますが、もう少し視野を広げて見ていくということを、今後、後輩にも伝えていきたいと思える2年間でした。ありがとうございました。

#### 橘委員

この提言でお話をしながら、すごく前向きになれるけれど、自分が置かれている地域学校協働活動をしている日々の実感と、ここに書かれてい

ることの遠さに少し愕然とするところが今日の感想です。

実際、大事なことは大事ですが、私の周りには、高齢の方がたくさんおられます。自治会の方もたくさんおられます。今、子どもの居場所や、いろいろな経験をさせてあげたいことが大事だと言いつつ、それを現場で支えてくださる方の気持ちが一向にこちらに向いてこないというのが実感です。それをどうやればこっちに向けられるのだらうと活動を続けた期間でしたが、若い世代の方が、先程、中村委員が言われたように「貢献」と「成長」と「仲間」に自分たちは期待するという言葉に勇気づけられました。

私が接している世代の方々にそれを感じない。でも、次の世代の方々は、先程言われたような気持ちを持って世の中に対峙してくださっていると思うと、まだ手を抜けないというか、頑張り続ければ次の世代がつないでくれると希望が持てると思いました。“絵にかいた餅”にならないように、提言に近づけるように自分たちは取り組んでいかななくてはいけないと思いました。本当に、2年間ありがとうございました。

#### 箕浦委員

2年間ありがとうございました。社会教育というものを委員になるまでは、ほとんど考えたことがありませんでしたが、この2年間を通して、社会教育に高校ができることについて何かと考えることが非常に勉強になりました。地域と学校がどう関わるか、つながりをどう生み出すか。現地視察で山形さんの研修に行った時に思いましたが、地域に出ていくことで、地域ももちろんですが、その人自身も育つという面白い事例でありました。関係人口を増やすために何を学校がすべきかを考えました。

仕事を離れば、自分が一地域に住む市民として、その地域を活性化し、教育力を高めるために、どんな手法があって、どうしていくといいのかということが大変勉強になりました。早速実践しているところもありますが、そのような貴重な機会をいただけてありがたかったと感じています。本当にありがとうございました。

#### 福井委員

2年間、未熟な中、たくさん学ばせていただいてありがとうございました。先程もありましたが、一つの言葉の中から多様な見方があることを学ばせていただきました。これまでもたくさん報告を読ませていただきましたが、たくさん見方があることを学ばせていただいたことは、私にとって大きいです。

まだまだ経験が浅いですが、見方は多様であることを教えていただいたおかげで、人と関わる時に考える手段が増えたので、そこから自分にできることは何かと考えるという糸口になっていくと思います。ありがとうございました。

#### 梅村委員

2年弱、みなさんありがとうございました。3年前に社会教育主事講習を受けて、社会教育士の称号を得ました。社会教育をもっと使いたいと思っていた時に公募を見かけて、選出していただいたおかげでこの場にいます。この場にいと

2年前に緊張していたことを思い出します。以前の私の社会教育委員のイメージは、充て職で招集されたから出席して、ただ座って承認するというようなものでした。

しかし、今日の会議はとてもみなさん活発で、御自身の現場の意見や社会教育に対する考え方を聞いて、こんなに思いを持っている人がいると知れて、勉強にもなり、改めて社会教育の可能性を感じた場でした。

私が活動しているyourshipの事例発表の機会をいただけたこともうれしかったですし、また、いろいろな活動をしている人を知ることができたこともよかったです。

橘委員が言われた“絵に描いた餅”にならぬように、僕自身がどんどん社会教育を実践していきたいと思います。半分宣伝ですが、社教情報(94号)に執筆させてもらえる機会をいただいたのでお読みください。地域課題に向き合う社会教育委員という題であったと思います。ありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。

#### 中村委員

2年間お世話になり、本当にありがとうございました。私は、一企業の立場から会議に参加させていただきましたが、本当に多くのことを勉強させていただきました。今まで、小学校の食育講座で社会貢献をしている、会社自体もそういう意識で、その枠から出し得なかったと思います。

しかし、ここにいる社会教育委員のみなさまに教えていただく中で、社会教育の概念を学ぶことができました。

2年前とは違い、視野や視座が変化し、それを社内でも浸透させています。この会議に参加させていただき、梅村委員とは一緒に小学校で親子お菓子講座をさせていただき、11月には、中北委員とも南郷里小学校で100名を超える、過去最多の子どもたちに食育講座の機会をいただくことができました。初めてであり、苦労はしましたが、感想文を読んでいると、将来こうなりたい、ああなりたいという感想をたくさんいただきました。料理人、シェフの皆さまのモチベーションも毎回高いものがあり、この体験活動をこれからも継続していきたいと思います。継続することが、ここに活動されている社会教育委員の皆さまのお役に立てればと思い、これからも頑張っていきます。ありがとうございました。

#### 内山委員

2年間お世話になりました。ありがとうございました。この会議では、実践をされているみなさまが、より高次の考えのもとに、色々なコーディネートや後輩を育成されていることが分かり、大変有意義な時間でした。社会教育は、子どもの学校外教育に始まり、生活課題や福祉など広い範囲を問題にする教育です。生涯学習と社会教育の違いをふりかえりますと、社会教育は働きかけということで、人々の生涯学習のために働きかけていく様々なご実践を教えていただき勉強になりました。

社会教育は、広い範囲を扱うので理念に偏りがちではありますが、実践から出てきた意見を集約して、社会教育としての見方というものを確立できた提言だと

思っています。今後、社会教育としてはこう考える、社会をこう見ることを、自信を持って推進していきたいと考えています。

社会教育の見方というのは、提言にもありましたように、安心してそこにいられるという気持ちを各々が持てる社会を作っていく、その方法論として学びを介していく。それは、物を買ったりすることではなく、学びを介して、みんなが安心感を得ていく。ここでは「つながり」という言葉で表されていました。このようなことを社会教育の見方として進めて行きたいと思います。

問題点としては、橘委員も御指摘いただきましたが、地域で今、汗をかいて日々頑張っておられる推進者それぞれに、このような理念がきちんと届き、今支援をされている一人一人が自分だけではないと、このような共通の考えをもとに、大きな自信を得て活動していくことが大事なのではないかと思います。それが、後に続く者にも背中を見せて、付いてきてくれる方が増えることではないかと考えます。よい会議に参加させていただき、ありがとうございました。

#### 平松委員

2年間ありがとうございました。最後の会議に会場で出席できず残念です。地域で図書ボランティアの活動があるので、移動時間を考えるとオンラインでの参加となりました。社会教育委員の委嘱をいただいた時、住んでいる高島市でも委員をしたことがないのに、県で何ができるのか分からぬまま受けさせていただきました。結局は、自分がこれまでやってきた活動が社会教育になるのだとか市民活動として色々な思いでグループや団体が活動されているが、そのようなことも社会教育なので、今回の提言の終わりにある「多くの市民が無意識に関わっている営みであります」の部分は、本当にそうだなと納得しています。

ただ、そのような方々に今やっている活動が社会教育だよと伝えるべきなのかどうなのかよく分かりません。今回のシートが社会教育チェックシートになっていますが、自分たちの活動がどういった視点なのかをチェックシートを通じて、自分たちの活動の意味付けや、地域や社会に繋がり役立っているという意識を前向きにするための気づきの機会に使えるのではないかと思います。

私は、家庭教育の区分で関わらせていただいています。個人的にフリースペースを担当しています。家庭教育自体が成り立たない家庭も実際は多くあります。そのことについてもどのようにしていけばよいか。家庭を地域全体が支える仕組みが、社会教育は別として、今日の議論を含めて必要であると考えました。

ここには、色々な方がおられ、委員になりたい皆さんの繋がりをいただけて、研修に行くことで学びを得られ、充実した2年間を過ごさせていただきありがとうございました。

#### 角出委員

ありがとうございました。個人としては、現地研修会に行きたかったです。今回、社会教育についてたくさん勉強させていただきました。私は、家に帰ると住職としての職があります。「杉の子子ども会」を、私の父母が立ち上げ、その後を継いで細々とやっています。現在の小学校6年生が卒業すると、子どもはわずか5、6名になってしまいます。その中で、チェックシートを見ながら、もっと

地域の人も一緒になって、今はどちらかと言うと、私と妻が子ども会をしていますが、そこにできるだけ色々な地域の人が絡んでくれるとおもしろいのかなとヒントをいただけてよかったと思っています。これからもよろしく願いいたします。ありがとうございました。

#### 高橋委員

最後の会議もオンラインの出席になり、申し訳ありません。先程、平松委員も言われましたが、終わりの部分に色々なことが集約されていると思っています。社会教育は、奥が深すぎて、私は、社会福祉の立場で入っていますが、難しいなと思っていました。平松委員が紹介された「無意識な関わりが主体的な関わり」への部分と、4行目の滋賀県社会教育が目指すものは、県民一人ひとりのウェルビーイングが高まることで、それにはそのアプローチの仕方のことが最後に書かれていますが、終わりの部分を見て私も少しは賢くなったのではと思っています。

あまり力になれませんでしたがお世話になりました。ありがとうございました。

#### 上田副議長

甚だいい加減な副議長でありまして恐縮でした。本来、議長を補佐する立場ですが、もっぱら駄洒落担当として役割を果たし、場の心理的安全性を高めたということでお許しをいただきたいです。今日チラシを配らせていただきましたが、私の関わりのある直近のイベントチラシです。今週末に、滋賀県死生懇話会というのが開催されます。もう一つは、高校生サミットです。

とりわけ、死生懇話会の関係では、先頃報道されたところによると、2025年の小中高生の自殺者は532人で過去最多となっています。これは、社会の責任が大きいのと思います。今回の死生懇話会にお招きするゲストの一人が、漫画家の吉本ユータヌキさんといって「明日死のうと思っていたのに」という漫画で話題を集めました。彼と話していると、苦悩を抱えた時の気持ちは、死にたいというより、死ぬしかないというものであったそうです。

つまり、解決策としての死みたいなものになっているということですね。この問題を解決するには死ぬしかないの、明日死のうと思っていた、こういうことだそうです。ちなみに、ユータヌキさんが明日死のうと思っていたのに、生きたのは、気がついたら生きていたということだそうです。生きたいとかそういうことではなくて、気がついたら生きていた。彼を生かしたのは、まさに傍らにいた“寄り添う”というより、もっとそこに立っていた、文字通りスタンドバイしていた友人、あるいは趣味の音楽であるとかそういうものであったそうです。

そのようなことを考えると、社会教育や社会が、明日死のうと思っている若者たちにとって、苦難の解決策や辛さ、苦しきからの脱出の手段になれるところがあるのではないかと考えていたところです。社会教育も様々な時代変化の中で課題を抱えています。変わらぬ社会教育はこのような課題に対しても最も大事な心のインフラの一つと考えています。

社会教育を巻き込むとか引っ張るとかだけではなく、まさにそっといつでも

そこにスタンバイしているようなもの、能動でも受動でもない中動態という、一見宙ぶらりんのような、引っ張られたり引っ張ったりする中で、学び合ったりいろいろなものが生み出されていく、この場そのもののこちよさを広げていくことを「縁出」していくことがこれからの仕事と思っていますので、引き続きこれからもよろしく願いいたします。

川端議長

本当にみなさんありがとうございました。私は、特別に社会教育を研究しているわけではないですが、議長という職を2年間務めさせていただくことができました。上田副議長や委員のみなさんのおかげで、今日この時間を迎えることができました。私にとって、安心できたのはみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。

私たちの任期は7月1日までです。実は、社会教育の全国大会が10月に大阪で行われます。その分科会も滋賀県が1つを担っています。高島市の取組、梅村委員のyourshipの取組を含め、滋賀県で分科会を運営していきます。コーディネーターは上田副議長です。滋賀がそこで大いに発信をしようではないかという思いで持ちたい分科会です。ぜひ委員である、ないに関わらずお越しいただきたいです。

社教情報94号が間もなく発刊されます。そこまではみなさんから、有志の会でいろいろといただいた経緯がありますので事務局に対応をお願いしました。お手元に届きましたら、梅村委員の記事も載っているのでぜひお読みください。本当に2年間ありがとうございました。

事務局にマイクを返します。

### 3 その他、諸連絡

- ・連絡事項

### 4 閉会

- ・課長挨拶